



白一色に統一された軒高6メートルのハウスと外観

栃木県下野市に、最先端のトマト栽培設備を兼ね備えた施設「トマトパーク」がオープンする。施設園芸総合メーカーの誠和。（大出祐造社長、

高生産トマト技術を情報発信 多機能施設「トマトパーク」今開

施設園芸総合メーカー 誠和。

（栃木県下野市）が手掛けるもの。①総合環境制御技術を用いた高生産トマトの試験・研究②後継者育成のための教育・研修会③情報公開する視察・見学——の3つを軸に、世界基準のトマト栽培技術を発信する日本で唯一のトマト栽培施設になるといつ。

の施設園芸をリードするオランダの高収量型栽培技術に着目。栽培技術の情報収集を積極的に行い、国内での栽培試験を行ってきた。2012年には、管理を行う千葉大学の植物工場コンソーシアムのハウスで、大玉トマト10kg当たり51gの高収量を達成。蓄積した知見を環境制御装置の開発

やサービスへと展開させ
てきた次のステージとして、トマトパーク事業に
乗り出す。大出社長は「世界で生き残るために
は、美味しいトマトの収量をいかに上げるかを考
えるべき時がきている。『採れる技術』の構築に
取組み、情報公開することで日本全体のトマト收
量底上げにつなげたい」意気込む。



スには、最適な環境に自動制御で与える総合環境制御システムを導入。柱や資材を白に統一し、屋根の骨組みの幅も広くすることで、太陽光を効率的に活用できる設計となつてゐる。同社の最新式「ロックウール栽培システム」で国産品種の大玉トマトは10kgあたり20kg収穫できる技術の構築を目指すほか、新たに高糖度トマトとミニトマット、ミニトマットにも加え、高生産トマト栽培実験を行つ。また、栽培管理者不

月から有料で、社員によるガイド付きの施設見学を開始し、年間約3千の観察受け入れを予定している。

同施設内ハウスでは、間400㎡以上のトマト収穫が見込まれるため

、ト年し人學よ
今後は卸業者と連携して契約栽培や、通信販賣や直売形式での青果販賣も行い、規格外トマトを取り組んでいきたいとしている。

収に一使用
やどれ使用
誘穫はンを

月から有料で、社員によるガイド付きの施設見学を開始し、年間約3千の視察受け入れを予定している。

ト 年 し 人 學 よ
て い る。今後は卸業者と連携した契約栽培や、通信販売や直売形式での青果販売も行い、規格外トマトを取り組んでいきたいとしている。

収に一用
やどり使
引なクを
誘穫はン
スには、最
適な環境に
自動制御で
きる総合環
境制御システムを導入。
柱や資材を日に統一し、
屋根の骨組みの幅も広く
する)こと、太陽光を効
率的に活用できる設計と
なっている。同社の最新
式「ロックウール栽培シ
ステム」で国産品種の大
玉トマトは10kgあたり70
kg収穫できる技術の構築
を目指すほか、新たに高
糖度トマトとミニトマト・ニティトマトも加え
た、高生産トマト栽培実
証実験を行つ。
また、栽培管理者不足
を解決すべく、会員制で
人材育成を行う「トマト
パークアカデミー」を8
月に開校。1年制と2年
制のカリキュラムで、年
間18人の研修生受け入れ
を予定している。栽培か
ら農業経営に至るまでの
座学に加え、同施設内で
の実習を通じて、施設園
芸を牽引できるトマト農
家を育成する。